

## 第13回教育研究審議会

### 議事概要

日時 令和元年11月6日(水) 午後4時00分～午後5時19分  
場所 本部棟3階 大会議室  
出席者 福田誠治学長、阿毛久芳副学長、新保祐司副学長、深澤祥邦事務局長、  
竹島達也大学院研究科委員長、西尾理学長補佐、平野耕一学長補佐、樋口雄人学長補佐、  
加藤敦子国文学科長、Hywel Evans 英文学科長、山本芳美比較文化学科長、  
鳥原正敏学校教育学科長、春日尚雄地域社会学科長、野中潤図書館長(兼)情報センター長、  
廣田健教職支援センター長、竹下勝雄地域交流研究センター長、茂木秀昭国際交流センター長、  
市原学入学センター長、矢嶋亘総務課長、石川和広経営企画課長、藤江隆学生課長  
欠席者 小林重雄理事、加藤めぐみ学長補佐、原和久国際教育学科長、豊嶋朗子語学教育センター長

福田学長より挨拶

---

### 2 議 事

- (1) 令和2年度 非常勤講師担当科目コマの発議・提案について(英文学科)
  - 担当から資料1に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。  
→提案通り承認。
  - ◇英作文ⅢA・言語情報処理・英作文ⅣA・言語獲得論Ⅱ・Applied Linguistics
  
- (2) 令和2年度 非常勤講師担当科目コマの発議・提案について(地域社会学科)
  - 担当から資料2-1に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。  
→提案通り承認。
  - ◇教育実践演習C・F・特別演習(教育文化)
    - ◆カリキュラム移行に伴う新規採用
    - 担当から資料2-2に基づき「非常勤講師採用候補者の提案」について説明。  
→提案通り承認(予定1年間)。
    - ◇東京学芸大学史学・歴史教育者協議会 新規採用 ランクA  
→地域社会学科には高等学校経験者はいるが、中学校経験者がいないため 中学校経験者に限定し検討した。また、担当科目が教育実践演習であるため、直前まで現場において研究などもしている方を選定した。
  
- (3) 令和2年度 非常勤講師担当科目コマの発議・提案について(共通教育)
  - 担当から資料3-1に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。  
→提案通り承認。
  - ◇自然と生命Ⅳ
    - ◆オムニバス方式講義担当者としての追加に伴う新規採用
    - 担当から資料3-2に基づき「非常勤講師採用候補者の提案」について説明。  
→提案通り承認(予定1年間)。
    - ◇日本火山学・日本災害情報学・日本災害医学 新規採用 ランクA

→山梨県富士山科学研究所の方であるため、客員教員の称号付与推薦書についても提出をすること。

#### (4) 語学留学について

○担当から資料 4-1 及び資料 4-2 に基づき説明。

→国際交流センターにおいて検討のうえ教育研究審議会に後日報告。

前回の教育研究審議会において報告のあったスペイン留学の危機管理問題で、引率者から詳細な聴取などを実施し再点検をすること。また、留学プランについても調査・点検のうえ改善策の提示をすること。なお、他の語学留学協定校に対しても、現状の危機管理体制調査を実施すること。語学留学について、引率は行わず個人の責任で行うよう変更を検討すること。

→本日の国際交流センター運営委員会において引率の宮城先生より報告があった。授業に出席しなくなって2日目に、宮城先生へ留学協定校よりメールで連絡があったとのことであり、担当の先生は学生本人とメールでやり取りをしたが受け入れられず、一緒に留学している他学生にも連絡をし説得の協力をしてもらったが駄目であった。

なお、担当の先生に連絡があった時には到着から日数が経過していたため、先生はスペインをたった後であった。

→調査が不十分であるため詳細に調査・点検をして報告をすること。

#### (5) 留学生向け日本語教育について

○担当から資料 5-1 に基づき説明。→継続審議。

外国語科目のうち日本語について、現在、複雑な状態となっており語学教育センターにおいて開講科目案が示されたが、カリキュラム運用の域を超えているため、新旧科目対照表を作成し、数種類ある別表を一本化するようにすること。なお、実践目的の授業であるため10名以下の受講生の場合は原則開講せず、交換留学の集中講義は40名を目安にしたい。

→分類分けについて精査のうえ開講科目を作成してもらう必要がある。

→国際教育学科以外の留学生は少人数で留学してくる。

→受講生がいない場合に開講しないのではなく、受講生がいる場合に新たに開講するとした方が良いのではないか。

→語学教育専門の教員は厳密なレベル分けによりクラス分けを行ってしまうが、人数が1名・2名などになっている現状から、同じクラスでレベルが違う学生ごとに教材を使い分けるなど、教員が大変になるが対応する必要があるのではないか。しかし、教員の意識改革を行っていかないと改善は難しい。

→アダプティブラーニングなどテクノロジーを使用したシステム導入の方向性も、大学の授業向けではない可能性はあるが手法としてはある。

→他学の状況を調査する必要もあるのではないか。

#### (6) 英語非常勤講師について

○担当から資料 6 に基づき説明。→提案通り承認。

語学教育センターにおいて非常勤講師に対して面談を行った結果、新カリキュラムへの理解不足があるため、来年度も旧カリキュラムのみの担当とする。

→面談について公平性の観点から語学教育センター以外の者として立ち会った立場であるが、報告書内容は辛辣な意見となっているが報告書のとおりであり決して厳しすぎる意見ではない。

#### (7) その他

○なし

### 3 報 告

#### (1) プロジェクトI (授業改革) メンバー補充について

○担当から資料7に基づき説明。

「公立大学法人都留文科大学プロジェクトチーム設置規則」第3条に基づく理事長任命により2名を加える。

#### (2) 令和元年度 秋季オープンキャンパス報告について

○担当から資料8に基づき説明。

10月12日・13日に予定していたが、台風第19号の影響により来場者等の安全を考慮し中止とした。申し込み状況のみであるが昨年度を上回る結果であった。

#### (3) その他

○担当から学外研修者・昇任候補者・名誉教授候補者について、提出は11月中に提出をするよう再確認。

### 4 その他 ○なし

### 5 閉 会

以 上